



## 市立図書館入館者数

# 二十万人達成!

## 平成二十七年四月一日〜二十八年三月二十九日

図書館への入館者数が二十万人となった三月二十九日(火)午後二時に記念セレモニーが開催されました。二十万人目は中学三年生梅田知奈さんに、前後は主婦吉村美智子さんと保育園児の原あいりちゃん。二村副館長から記念品が贈呈されました。

また、小林館長のメッセー지가読み上げられました。来館者の皆さんと共に祝い、また駆けつけた大井副市長さんからもお祝いの御挨拶を頂きました。今年度最終日の三十日までの入館者数は二十万九百五十八人になりました。

### ☆入館者数の推移

- ・平成 25 年度 164,315 人
- ・平成 26 年度 177,180 人



図書館くらぶ手作りのくす玉を割って頂きました! 雰囲気盛りますがりました。



☆記念セレモニーの際に来館していた人の言葉  
「近隣の図書館をあちこちよく行きますが、中津川の司書さんほど親切で気持ち良い対応をしてくれるところは  
ありません」と話してくれました。



花ボラ 捫垣さんから花束贈呈



大井副市長さんからお祝いのご挨拶を頂きました。

# 図書館は人が幸せになるためにあります！

小林光代図書館長は、新図書館の館長となるべく公募によって秋田県大館市から中津川に來られました。

新図書館建設は中止となったにも関わらず四年九ヶ月秋田へ帰ることなく当地に残り現図書館の充実・再生に力を尽くされました。

図書館人としての小林光代さんの仕事はわたしたちに多くのことを学ばせてくれました。行動の原動力ともなった図書館に対する思いを伝え継承していきたく特集にします。

## 【小林館長語る】

### 図書館員は市民が幸せになる手助けをする！

図書館は本を媒体として人が居る場所です。最終的には人が基本です。居心地がよく過ごせ元氣をもらえたり、明日への心の糧が得られたり、図書館はすべての人が幸せになるためにある場所です。そのため言葉があり考えを伝えることができる場所としての図書館の運営が最も大切に思います。

ひとつの方向に向かうために、お互いの理解を深め、人によっては手段が少し異なるかも知れないがそこは許容しながら進めていくべきではないでしょうか。そして図書館員は、市民が幸せになる手助けをする、利害とか圧力とかはあるにしても、一緒に考え、進めていく。そこでは自分の利害を抜きにして考えていくことが重要ですね。宮沢賢治の雨ニモ負ケズの一説にもありますね。

トップが動かなくては変わらない↓部下がそれを伝承していかなくてはならない。

## 『どんな時も、スクラム組んで』

### 行動を 今

〜ごすこ〜



仕事はやりがいがないければ苦痛でしかないでしょう。専門性を生かし自分たちの仕事がみんなに喜ばれていることに誇りを持つこと、なんでこれをやるのかとマイナス志向にならない、そしてやれなかったことをあれこれ弁解することなく、人としてどうなのかを判断基準にする。悪いことは正面きつて言い、あとに残さない。人の好き嫌いはあるのは当然ですが、より良い図書館にしていくために、図書館人として仕事のスキルを高めていきましょう、日々の研さんを大切に！

☆ トップダウンでなく、ベストチョイスで！

☆ 思いついたらすぐ動く！

## ボランティアの皆さんへ

時にぶつかりあいもしながら、ともに「どうしたら図書館にとってベストなのか」「何が自分の生きがいになるのか」を探り、常に、図書館と同じ方向に向かって進んでいただくようお願い。職員もボランティアも、協働作業はどちらにとっても等しく我慢が求められることを理解し合い、進みましょう。日ごろの簡単な声掛けが心の絆につながり、思いやりにつながる重要なポイントです。



図書館で一緒に活動しませんか！

くらぶ会員募集中！

会長 桑澤宏康 TEL 0573 (66) 0249